

35 牧小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	ふるさと牧を愛し、夢と志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども
我が校の目指す子ども像	よく考えよく学び、心豊かでたくましい子ども



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」が実感できる授業づくり ・主体的な家庭学習の定着と充実 ・主体的に進める特別活動（児童会、縦割り班、あいさつ運動）の推進 ・運動好き、嫌いの二極化解消 ・アウトメディア及び食育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶたのしさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくり ・学習習慣の定着と学習環境の整備 ・自己有用感と相手への思いやりを育てる取組 ・運動意欲と望ましい生活習慣を養うための取組
成果○と課題■	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> ■めあてと振り返りを意識して、授業づくりを進めたが、授業の理解状況に満足度が高まらなかった児童が17.4%いる。 ○授業や特別活動でのペアトークの積み重ねにより、対人関係スキルが増し、交流の楽しさを実感できた子どもが多い。 ■メディア活用や食育で、家庭との連携策が尽きた感が否めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資質能力表を活用して、発達段階に応じた話し合い活動を充実できた。 ■小中合同の授業参観ができなかったので、取組の関連や発展が分からない。 ○小中合同体力テストにより、児童生徒が関わり合うことで運動意欲や技能を高めることができた。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容									
<p>ねらいは、ふるさと牧を愛し、自然や人の姿に学び、その姿から自分の将来を思い描く児童を育てることにある。</p> <p>そのため、地域資源（人的・物的）を活用し、教科横断的な視点でカリキュラムを編成・実施した。</p> <p>体験的で探究的な学習を積み重ねることで、児童は実感的理解を深め、学びと生活が強く結び付いていることに気付いた。</p>	生活科	「ぼくとわたしのやさい作り」（2年）								
	総合	「牧 すてきな場所・すてきな人・すてきな自分」（3・4年生）								
		「牧の本物〔ひと・もの・こと〕から学びを深める」（5・6年生）								
<p>学校運営協議会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かした各学年の探究活動は、効果を上げている。今後とも牧区のよさを生かして、児童の課題追求力を高めてほしい。 ・今後も、牧区の資源や人の営みの優れた点を学ぶ機会を意図的に設けていきたい。 	<p>夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった</p> <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>当てはまる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>どちらかという当てはまる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>どちらかという当てはまらない</td> </tr> <tr> <td></td> <td>当てはまらない</td> </tr> </table>		○	当てはまる		どちらかという当てはまる		どちらかという当てはまらない		当てはまらない
○	当てはまる									
	どちらかという当てはまる									
	どちらかという当てはまらない									
	当てはまらない									

スクールのマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1人	保護者	10人	住民	10人	その他	0人	合計	11人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	0回(0)	2学期	0回(0)	3学期	0回(0)	合計	0回(0)
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回(0)	2学期	1回(0)	3学期	2回(2)	合計	4回(2)

活動の内容	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回は、学校経営方針の説明と承認の他、上越教育事務所社会教育課小林課長より、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」を演題として講話をいただいた。 ・1、2回はグループワークを行い、それぞれの立場での意見や思いを率直に語り合った。テーマは「地域と学校での人づくり」、「家庭や地域の実践事項」であった。 ・3、4回は、学校関係者評価や目指す子ども像に関わる内容で書面審議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を通し、絵手紙制作や地域振興に関する講師を招聘した。児童は、専門的な立場の方から質の高い指導を受けることができた。 ○小林課長の助言を受けることで、他学校区の情報などを得ながら、当区における協議会の望ましい在り方について話し合うことができた。 ■学校運営協議会と地域学校協働本部との連動をいかに図っていくかが課題である。

総括
<p>小中合同で学校運営協議会を開催することにより、小中9年間を見通した熟議を行うことができるのが当協議会の強みである。特に今年度は、上越教育事務所社会教育課長を招聘し、アドバイスを得たことは有効であった。今後は、いかに地域資源を教育活動に活かすかが重要である。そのためには、地域学校協働活動本部の活性化を図りたい。青少協が地域学校協働本部の母体となることについて、住民や委員の一層の理解を図る必要を感じている。</p>

〈活動写真〉



育てたい野菜を図書室で調べて、栽培を始めました。地域の方に協力いただき、作業を進めました。花が咲き、実を結ぶ野菜の成長に感動しました。



弘法清水公園や歴史民俗博物館、高尾の大ケヤキ等を見学しました。牧区の自然や人々の生活のよさを感じ、素敵な人との出会いも多く経験しました。



「本物から学ぶ」をテーマに、地域でご活躍の方々を訪ねました。味噌づくり等、実際の体験や講話を通して、自分の生き方を考えることができました。